



給食会だより

第146号

〔公財〕川崎市学校給食会



〒210-0004 川崎区宮本町6番地（明治安田生命ビル4F）

TEL 200-3298,3300 FAX 222-1442

厳しい残暑が続いておりますが、学校には子どもたちのにぎやかな声が戻ってきている頃かと存じます。今回は、給食用物資規格検査についてお伝えします。

学校給食会では安全かつ安心な給食を提供するために、学校給食用物資規格基準書に沿った給食物資の納入がなされているかの検査、確認、指導改善を行うことを目的とし、給食物資規格検査・確認業務を実施しています。

給食物資検査・確認業務につきましては、今までもお知らせしているところですが、今年度は7月から実施しています。給食実施小中学校117校及び学校給食センターには5月にその旨の文書を配付いたしました。計画では7月3校、9月3校+自校調理中学校1校、10月3校+学校給食センター1か所、11月3校+自校調理中学校1校、1月3校、2月2校の計20か所（小学校17校+自校調理中学校2校+給食センター1か所）を予定しています。献立連絡調整会議で2ヶ月先の献立が決定した時点でサンプル物資を指定し、給食会と契約している検査機関が次の段階ごとに検査を行います。結果に問題があれば納入業者に改善を図るべく指導を行います。

○物資選定委員会にサンプル物資が納入された時に立ち合い検査を行います。

- ・サンプル物資を受け取りその場で納品や調法の状態を確認します。



○専門機関が該当校や学校給食センターに出向き、納入時検査を行います。

- ・納入物資の形態、風袋、温度などの確認を行います。
- ・納入物資について主観検査を行います。



○検査機関にサンプルを持ち帰り、次の検査を行います。

- ・物資選定委員会時のサンプルと学校納入物資との品質比較検査を行います。



協力していただく小学校・中学校・学校給食センターには、給食会より5月17日付文書の他に、別途依頼文書をお届けいたします。前月の物資選定委員会で納入業者が決定した後の連絡となりますが、よろしくお願いたします。該当校・学校給食センターには、栄養職員・給食調理員さんに検査機関から職員が来校する旨を周知していただくことと、事前に物資の納入時刻と納入場所を報告していただくことをお願いしております。

サンマ漁の現状

秋に旬を迎えるサンマ。以前は手ごろな価格で身近な魚だったが、ここ数年、国内の漁獲量が低迷し、価格が上昇している。2018年7月10日、北海道釧路でサンマ漁のトップを切って水揚げが行われ、初競りでついた価格は、過去最高値の1kg33,000円。サンマの値上がりの原因は、国内の漁獲量の深刻な低迷にある。昨年約2,500kgあった水揚げも、今年は約700kg。しかも、昨年より小ぶり。これまで毎年20万トンから30万トンで推移していた漁獲量は、2015年11万トン余りに激減。約40年ぶりの記録的な不漁になった。2017年は8.5万トンだった。この状況に歯止めをかけるため、2017年7月及び2018年7月に、日本は国際会議「北太平洋漁業委員会」でサンマの資源管理強化を訴えた。



年	日本の主張	国名	それぞれの国の主張
2017	サンマの漁獲上限を年間56万トン余り	台湾	賛成
	日本は最大の24万2000トン余り 台湾は19万トン余り	中国	それほど資源量が減ったという認識はなく、漁獲枠の必要性はない。
	ロシアは6万1000トン余り 中国は4万6000トン余り 等	韓国・ロシア	上限を設けるのは時期尚早である。

※この会議は基本的に、全会一致となっているため、日本が提案した漁獲枠は合意が得られず、具体的なトン数などの実質的な議論はできなかった。

2018	排他的経済水域 (EEZ) での漁獲分を 除いて国・地域別の漁獲量を決める	アメリカ・ロシア等	賛成
		中国・バヌアツ等	操業の増加が資源の減少を招いたとは限らないとして反対

2018年の長期魚海況予報によれば、サンマは回遊数が増えると見込まれているので、学校給食会としては、漁獲量が増え価格も手頃になることを願っています。1月頃には給食の献立に登場するかもしれません。

サンマが記録的な不漁に陥っている原因として考えられること

- 外国漁船の公海での操業により、資源量が減っている。
 - ・日本のサンマ漁は伝統的に沿岸漁業で、ほとんどが排他的経済水域 (EEZ) 内で行われてきた。
 - ・近年、中国や台湾は、公海に積極的に進出して漁獲するようになっている。日本のEEZぎりぎりで操業する例も少なくない。
 - ・台湾は今では年間漁獲量で日本を上回り、世界で最もサンマをとっている。
 - ・中国の漁獲高は5年ほど前2,000トン余りだったが、2016年は6万トン余りと、実に30倍に増えている。中国では、サンマが健康によいという評判が広がり、魚介類の消費が増えている。
- サンマの回遊ルートが変化している。
 - ・サンマは6、7月には、日本のはるか沖合にいて近海には少ない。東経162度以東のサンマの資源量は減っていないのに、日本近海まで回遊してくる来遊量が減ってしまっている。
 - ・漁船は遠くまで獲りにいかなければならないし、本格的な来遊期までは魚群の密度も低い。
 - ・2014年以前は親潮の一部が北海道沿岸に沿って流れ込み、道東から襟裳沖、さらに三陸沖へと日本列島沿岸に沿ってサンマは南下していた。しかし2016年から、北海道沖を暖水が岸近くまで覆うため、親潮が沿岸に入り込むことができなくなった。サンマは親潮に乗って南下するので、今まで漁期のピークとなる10月には三陸沿岸にできていた漁場も、東の沖合に移ってしまった。

日本近海でサンマが減った海域ではマイワシやマサバが増加し、サンマを専門にとる棒受け網漁船の網にマイワシやマサバが混入してしまう。ロシアの管轄が及ぶ海域では、魚種別に漁獲量が定められており、漁獲量を魚種別に報告する必要がある。サンマの群れを見つけても、マイワシやマサバが混じっていると、操業が難しくなる。

水産庁 及び 国立研究開発法人 水産研究・教育機構等の資料等より